

令和 2 年 6 月 2 日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04870

研究課題名（和文）学校で教員が行う解決志向アプローチに関する研修プログラムの開発と効果検証

研究課題名（英文）Development and evaluation of a SFA training program for teachers

研究代表者

金山 元春（kanayama, motoharu）

天理大学・人間学部・教授

研究者番号：00457409

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：解決志向アプローチ（solution-focused approach: SFA）は、教員が行う学校カウンセリングにふさわしいとみなされている。教員にSFAの学習機会を提供することは重要である。本研究では、教員に対するSFA研修プログラムを開発し、その効果について検討した。研究結果に基づき、教員にSFAを提案するにあたっての留意点について、いくつかの提言を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

解決志向アプローチ（solution-focused approach: SFA）とは人々のもつリソースや強みを活かすアプローチである。生徒指導・教育相談は、児童生徒の問題行動への事後的対応に目が向けられがちであるが、本来は児童生徒が自ら課題を解決する力を積極的に開発することを目指すものである。しかし、この理念を具現化するための方法は未だ試行錯誤の状態にある。こうした現状に対して、SFAの観点から教員研修プログラムを開発することで、生徒指導・教育相談の本来の理念を実現する教員の教育観の変容をも見据えた新たな教員研修のあり方に対して、理論的・実践的・実証的な根拠をもとにした提言をはかった。

研究成果の概要（英文）：The solution-focused approach (SFA) is regarded as an appropriate method of school counseling that can be conducted by teachers. It is important to provide teachers with opportunities for learning SFA. The purposes of the present study were to develop a SFA training program and to evaluate its effect on teachers. Based on the results, we identified notable points to consider when suggesting SFA to teachers.

研究分野：生徒指導・教育相談 学校心理学・カウンセリング心理学

キーワード：学校 教員 解決志向 研修 生徒指導 教育相談 学校カウンセリング

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

筆者はこれまで学校現場の教員と協働しながら生徒指導・教育相談に関する実践的研究に取り組んできた。また、教員や教員志望学生を対象とした生徒指導・教育相談に関する研修プログラムを開発し、その効果検証にも取り組んできた。その経緯のなかで、生徒指導・教育相談に有用なアプローチとして着目したのが解決志向アプローチ (solution-focused approach: SFA) (Berg, 1994) である。

SFA とは人々のもつリソースや強みを活かして積極的に成長を促そうとするアプローチである。生徒指導・教育相談は、児童生徒の問題行動への事後的対応に目が向けられがちであるが、本来は児童生徒が自ら課題を解決する力を積極的に開発することを目指すものである。しかし、この理念を具現化するための方法は未だ試行錯誤の状態にある。こうした現状に対して、SFA の観点から教員研修プログラムを開発することで、生徒指導・教育相談の本来の理念を実現する教員の教育観の変容をも見据えた新たな教員研修のあり方に対して、理論的・実践的・実証的な根拠をもとにした提言をはかることを目指した。

### 2. 研究の目的

本研究は現職教員と教員志望学生を対象とした SFA に関する研修プログラムを開発し、その効果を検証することを目的とした。

### 3. 研究の方法

まず、日常的に児童生徒に対応している現職教員を対象とした SFA 研修プログラムを開発した。これまでの研究知見に加えて、生徒指導・教育相談に関する指導者層の教員や SFA エキスパートに助言・指導を受けつつ、現職教員を対象とした SFA 研修会を企画・実施した。そして、これを契機として教員ネットワークを構築し、学校での実践事例を蓄積した。そうした実践的研究 (アクション・リサーチ) を通じて、学校の現実的課題に対応できる具体的技能とその研修方法のあり方について検討した。そして、現職教員を対象とした研究の成果を踏まえて、教員志望学生を対象とした SFA 研修プログラムを開発した。

また、「解決志向」を狭義にはとらず、児童生徒が自ら課題を解決する力を積極的に開発することを目指す取り組み (クラス会議、構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング、認知行動療法、ポジティブ行動支援、チーム援助等) に着目し研究を進めた。

さらに、学校の生徒指導・教育相談において重要な役割を担う心理職を対象とした SFA 研修も実施した。

### 4. 研究成果

研究開始当初から計画していた現職教員を対象とした SFA 研修プログラムを開発・実施した。また、教員志望学生を対象とした SFA 研修プログラムも開発・実施できた。そうした一連の実践的研究を通じて、SFA 研修において活用できるツールやプログラムの開発に成功した。

その一つが SFA のプロセスを実感できる体験学習プログラムである「リソース探し」である。これは4、5人組で行われる。ここでは各自が「リソースカード」に書かれた質問 (例「あなたの成功体験を教えてください!」「あなたが好きなことは何ですか?」) に答えることを通じて自己のリソースを語るうちに、自尊感情の向上が導かれるというプロセスが仮定されている。研究成果として発表した金山・片岡・金山 (2017) の研究では、研修参加者の状態自尊感情の向上に及ぼす「リソース探し」の効果を統制群法によって実証した。SFA 研修において、このプログラムを実施すれば、研修参加者は SFA で生じるプロセスを体験的に理解できると考えられる。

また、「リソース探し」では語り手をコンプリメントしながら話を聴くように促される。「リソース探し」の語り手になれば、自己の語り到他者からのコンプリメントが伴うと、どれほど力が湧き、勇気づけられるのか、リソースのフィードバックとしてのコンプリメントが持つ効果について実感を伴って理解できる。同時に、自分が実際に他者から多様なフィードバックを受けたり、他者にフィードバックを送ったりすることをくり返す中で、コンプリメントに関する理解を深めることができる。つまり、「リソースカード」を用いた「リソース探し」は、コンプリメントのトレーニングとしても機能すると考えられる。研究成果として発表した金山・藤原 (2019) の研究では、研修参加者のコンプリメント効力感の向上を確認し、「リソース探し」がコンプリメントのトレーニングとして機能することを示した。

金山ら (2017)、金山・藤原 (2019) による一連の研究結果から、「リソースカード」を用いた「リソース探し」は、SFA 研修として有効なプログラムであるといえる。ただし、研修プログラムとしての有用性に関しては、さらなる検討の余地があると考えられた。「リソース探し」は、互いのリソースについて語り合い、さらにその語りに対して肯定的に反応するという親密な対人相互作用を求めるプログラムである。そのため、金山ら (2017) や金山・藤原 (2019) のプログラムでは、「リソース探し」の前に、互いを知り合う活動と簡単な共同作業からなるウォーミングアップが行われていた。したがって、金山ら (2017) や金山・藤原 (2019) が報告している結果には、そうしたウォーミングアップの影響が含まれている可能性があった。そこで研究成果として発表した金山・西崎 (2020) の研究では、ウォーミングアップを行わずに「リソース探し」を実施しても、先行研究と同様の効果が得られることを確認した。この結果から、研修講師は状況に応じてウォーミングアップ実施の有無を判断するなど、実践現場においてプログラムの柔

軟な構成が可能になると考えられる。

SFA 研修としては、以上のようなプログラムに続く段階的トレーニングを開発する必要がある。この点に関しては、研究成果として発表した金山(2018)の研究知見を活かすことができる。金山(2018)は、一連の先行研究と共に、教員・保育者のリソースを喚起することで、彼ら・彼女らが自己効力感を高め、明日からの教育実践に臨むことができるように工夫を施した研修プログラムについて提案している。プログラムは複数のエクササイズからなるが、主活動ではSFAのスケール・クエスチョンが用いられる。具体的には、二人一組でワークシートにある質問にそってやり取りする活動である。一方が「教育(保育)現場には『気になる』行動を示す子どもがいますね。あなたは、そうした子どもにどのくらいうまくかかわることができていると思いますか?『まったくできていない』が1、『そこそこできている』が10として、数字にするとどのくらいでしょうか?」と質問する。相手が数字を答えたら、「その数字分あるのは、これまでにどんな取り組みをなさってきたからですか?」とたずね、相手の話に耳を傾ける。そして、「今よりも数字が1だけ上がったとしたら、どのような取り組みをしていると思いますか?」と質問を続ける。聴き手はコンプリメントしながら話を聴く。このプログラムでは、話し手、聴き手のいずれの立場も体験することになっている。このように、本プログラムは、参加者が互いのリソースを引き出し合えるように構成されている。実際、プログラムに参加した教員・保育者は、子どもの問題行動への対応に関する自己効力感を向上させていた。さらに、自らの体験を通じて、子どものリソースを活用したり、コンプリメントを通じて子どもを勇気づけたりする教育活動に関して理解を深めていた。つまり、本プログラムはSFAの体験学習として機能すると考えられる。SFA研修としては、「リソースカード」を用いた「リソース探し」に続いて、このようなプログラムを行うことが考えられる。

なお、こうしたプログラムは、現場経験のない学生には難しいとの指摘があるかもしれないが、現状の教員養成ではかつてよりも子どもと関わる機会が充実しており、また学生の多くは教育ボランティア等に従事している。したがって、学生なりの教育実践に基づいたプログラムの展開は可能であると考えられる。

その他、SFAの姿勢に基づく事例検討会である「解決志向カンファレンス」を現職教員や教員志望学生と共にくり返し実施し検討を重ねた。実践的研究を通じて、研修プログラムの一環として事例検討会を位置づけることがSFAに関する理解を促すことがわかった。学校現場における生徒指導・教育相談に活かせる実践的な研修プログラムの開発に成功した。

以上のような成果が認められ、研究期間を通じて現職教員を対象としたSFA研修会を継続的に実施できた。研修会においては、研究成果として発表した金山・三本(2018)の研究知見を活かして、教員のSFAに対する認識を踏まえたプログラムを考案し実施している。本研究課題の研究期間が終了した後も研修依頼が続いていることから、現職教員に役立つ研修プログラムの開発に成功したといえる。

また、当初の対象であった現職教員と教員志望学生に限らず、学校の生徒指導・教育相談の充実において教員との協働が期待される心理職に対してSFAを学ぶ機会を提供し、学校におけるSFAの活用に関して検討を深めた。

さらに、現職教員との協働を通じて、「解決志向」を狭義にはとらえず、児童生徒が自ら課題を解決する力を積極的に開発することを目指す取り組み(クラス会議、構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング、認知行動療法、ポジティブ行動支援、チーム援助等)の知見を活かすことの重要性を認識し、それらに関する実践・研究を進めた。

このように、本研究では当初の構想よりも研究が進展し、今後の研究へとつながる成果を得ることができた。

#### <引用文献>

- Berg, I. K. 1994 Family-based services: A solution-focused approach. New York: W. W. Norton. (磯貝希久子監訳 1997 家族支援ハンドブック ソリューション・フォーカスト・アプローチ 金剛出版)
- 金山元春 2018 保育者のリソースを喚起する教育相談研修 プリーフサイコセラピー研究, 27, 22-27.
- 金山元春・藤原由衣 2019 教員志望学生を対象とした解決志向アプローチに関する研修 「リソースカード」を用いたコンプリメントのトレーニング プリーフセラピーネットワークカー, 20, 6-16.
- 金山元春・片岡愛・金山佐喜子 2017 解決志向アプローチの研修で用いるツールとプログラムの開発 「リソースカード」と「リソース探し」の提案 プリーフセラピーネットワークカー, 18, 22-32.
- 金山元春・三本久子 2018 教員の解決志向アプローチに対する認識 学校カウンセリング研究, 19, 1-8.
- 金山元春・西崎和人 2020 リソースに焦点を当てた解決志向アプローチの研修プログラムウォーミングアップの有無の検討 プリーフセラピーネットワークカー(印刷中のため頁数未定)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 金山元春・片岡愛・金山佐喜子	4. 巻 18
2. 論文標題 解決志向アプローチの研修で用いるツールとプログラムの開発－「リソースカード」と「リソース探し」の提案－	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ブリーフセラピーネットワーク	6. 最初と最後の頁 22-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山元春	4. 巻 1
2. 論文標題 中学生のキャリア教育とソーシャルスキルの自律的改善	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 天理大学教職教育研究	6. 最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山元春・藤川恭輔・野村光平・金山佐喜子	4. 巻 18
2. 論文標題 大学生の共同体感覚と所属コースに対する集団凝集性を育むクラス会議の実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校カウンセリング研究	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山元春・三本久子	4. 巻 19
2. 論文標題 教員の解決志向アプローチに対する認識	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校カウンセリング研究	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山元春・吉竹由	4. 巻 9
2. 論文標題 教員志望学生を対象とした構成的グループエンカウンター研修プログラムの開発と効果検証	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育カウンセリング研究	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.24665/jjec.9.1_35">https://doi.org/10.24665/jjec.9.1_35</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山元春・堀内美咲	4. 巻 67
2. 論文標題 教職課程で学ぶ特別支援教育・インクルーシブ教育と学級経営 - ゼミ単位の「クラス会議」を通じた学び -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 高知大学学術研究報告	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山元春	4. 巻 23
2. 論文標題 教職課程で学ぶ進路指導、キャリア教育とガイダンス、カウンセリング	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 高知大学教育研究論集	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山元春	4. 巻 27
2. 論文標題 保育者のリソースを喚起する教育相談研修	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ブリーフサイコセラピー研究	6. 最初と最後の頁 22-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.20748/jabp.27.1_22">https://doi.org/10.20748/jabp.27.1_22</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山元春・中島浩文	4. 巻 32
2. 論文標題 学生ボランティアを対象とした特別の支援を必要とする子ども（苦戦状況にある子ども）とのかかわりを学ぶワークショップ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 高知大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山元春・藤原由衣	4. 巻 20
2. 論文標題 教員志望学生を対象とした解決志向アプローチに関する研修 - 「リソースカード」を用いたコンプリメントのトレーニング -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ブリーフセラピーネットワーク	6. 最初と最後の頁 6-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山元春	4. 巻 2
2. 論文標題 教職課程で学ぶチーム学校の視点を踏まえた特別支援教育 - 学校心理学に基づくチーム援助をモデルとして -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 天理大学教職教育研究	6. 最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山元春・西崎和人	4. 巻 -
2. 論文標題 リソースに焦点を当てた解決志向アプローチの研修プログラム - ウォーミングアップの有無の検討 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ブリーフセラピーネットワーク	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 渡部昌平・武蔵由佳・金山元春・河村昭博
2. 発表標題 自主シンポジウム 「教員・保育士になりたい」と自信を持って言える学生の育成に向けて - 教員・保育士養成課程では何ができるのか -
3. 学会等名 日本教育カウンセリング学会第17回研究発表大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 会沢信彦・渡部昌平（編） 会沢信彦・金山元春・鈴木教夫・鈴木和正・明里康弘・吉田浩之・金子恵美子・宮古紀宏・佐藤晋平・藤川章・吉中淳・高網睦美・岡部敦・富永美佐子・渡部昌平（著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北樹出版	5. 総ページ数 -
3. 書名 生徒指導・進路指導の理論と方法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----